

日本教育工学会研究会  
高等教育の普遍化と不公式学習の意義

2011.5.14

西之園晴夫 堀出雅人 望月紫帆  
特定非営利活動法人学習開発研究所

講演後に一部加筆修正

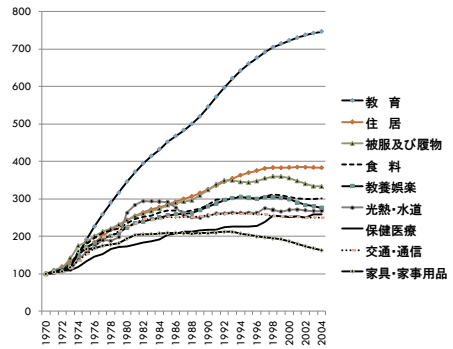
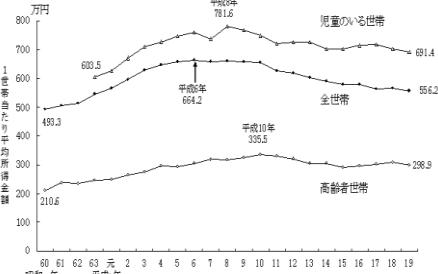
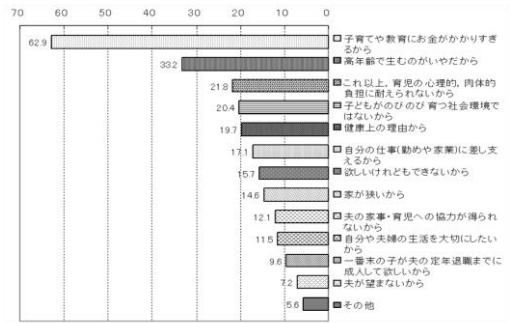


図1 1970年を起点とする消費物価の変動  
(総理府2010のデータから作成)

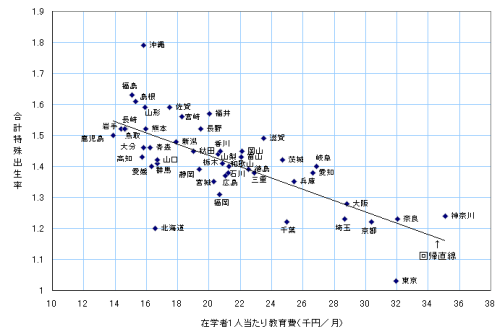


厚生労働省(<http://www.mhlw.go.jp/tokei/saikin/hw/k-tyosa/2-1.html>)  
図3 1世帯当たり平均所得金額の年次推移



国立社会保障・人口問題研究所「第12回出生動向基本調査」(2002(平成14)年)  
図01-3 現状よりも子どもの数を増やしたくない理由

教育費の高さと合計特殊出生率の相関(1999年)



(注) 在学者1人当たり教育費は2人以上の一般世帯の教育費を平均在学者数(幼稚園から大学、及び専門学校)で割った値。  
回帰分析結果は、 $y = -0.00001922 * x + 1.3997$  ( $R^2 = 0.5193$ )  
y: 合計特殊出生率、x: 在学者1人当たり教育費(円) (注) 四捨五入  
(資料) 厚生労働省「人口動態統計」、経済産業統計局「全国消費実態調査」

表1 2009年度高校卒業生進路		(%)	
非公式学習	公式学習	大学等進学者	53.9
		専修学校(専門課程)進学者	14.7
		専修学校(一般課程)等入学者	6.3
		公共職業能力開発施設等入学者	0.6
	不公式学習	就職者	18.1
		一時的な仕事に就いた者	1.3
		上記以外の者	5.1

(出典)文部科学省統計

OECDの区分による学習形態

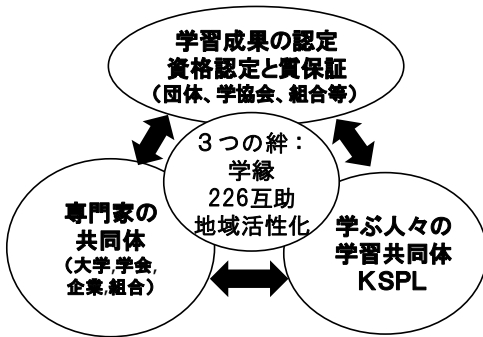
There is intention to learn: The activity is planned as a learning activity:	Yes: Learning is intentional	No: Learning is not intentional
Yes: The activity has [a] learning objective(s)	Formal Learning (Type I Learning)	Semi-formal Learning (Type III Learning)
No: The activity does not have [a] learning objective(s)	Non-formal Learning (Type II Learning)	Informal Learning (Type IV Learning)

3つの絆

学縁: 学びで結ばれる企業人、学生、生活自立志望者、専門家がチームで学ぶ

互助: 226互助制度。  
定員2割の生活自立志望者(失業者、生活保護世帯、最低所得世帯など)は無償  
定員2割の職能習得志望者(学生、低所得者など)は半額負担  
定員6割の職能向上志望者は通常費用負担

地域活性化:  
京都北部、中部、南部の中小企業の技術者支援と育成による活性化

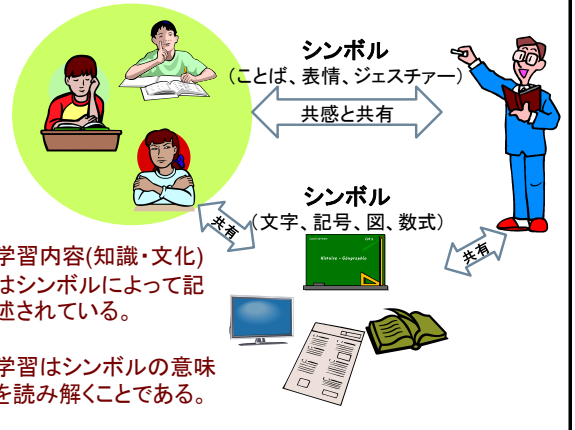
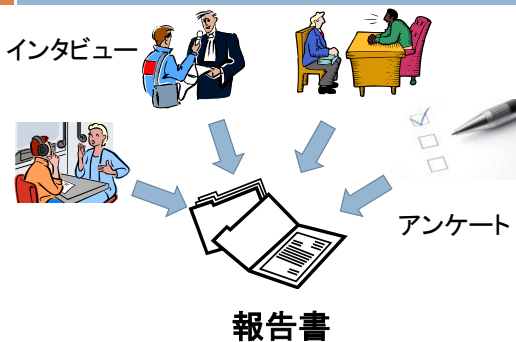


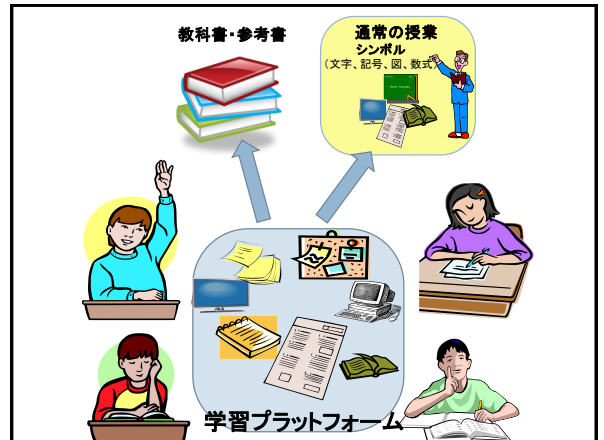
学縁: 専門的職能人材と学習者同志  
自律学習⇔協調学習

- ① 学習ニーズに応じた学習目標を設定する  
例) シミュレーションソフトを使い、回路設計を行いたい
- ② 学習目標に応じた専門家の主教材を準備する  
例) 最先端分野の講義をメディア化する
- ③ 学習状況に応じた学習プラットフォームを準備する  
例) 中小企業の職場で仲間と学習したい



職務ニーズと学習ニーズの査定





**学習プラットフォームとは**

**学習内容(知識、文化)はシンボルで記述される  
学習はシンボルの意味を読み解くことである**

模造紙  
付箋紙、プロッキー  
白板  
フェルトペン  
パソコン画面  
PowerPoint  
シミュレーション、ゲーム、アバターなど  
生成的ソフト  
印刷物、写真、ポスターなど

